

映画を通じて地元にも多様な価値観にふれる機会を提供する

「いのちと暮らしの映画祭」実行委員会

活動の目的

小さな町村でも単館系の映画館で上映されるマイナーでも上質な映画にふれる文化的刺激の機会をつくり、映画をきっかけに色々な意見や情報の交換機会を生み出したい。

また県は違っても一緒に映画祭を開催することで、県境を越えてお互いに親近感と連帯感を深め、今後も様々な場面で交流し合える状況をつくっていききたい。遠くの都会に憧れ、一方的に消費する生活や遊びではなく、近くて隣り合っている、実は今まであまり交流が無かった「近隣との交流」こそ潜在的な地域資源である。一緒に活動を始めるときの価値を提唱したい。

映画祭には、その具体化の一つ。映画を通じて地元にも多様な価値観にふれる機会を提供するとともに、楽しい文化イベントを通じて、地域に他県・他市町村から人々が訪れる機会を増やし地域を元気にしていきたい。

活動の内容及び経過

「いのちと暮らしの映画祭2017」を昨年に続き、第2回目として開催した。

鳥取県側では、日野町（2ヶ所）、日南町、南部町、米子市の5ヶ所、岡山県側では新庄村でおこなった。新庄村での作品は「わたしは、ダニエル・ブレイク」（監督：ケン・ローチ、2016年/100分/英仏比）を上映した。来場者は全体110名（新庄村21名）。

上映後は、映画に造詣が深い著述家の湯山玲子氏をゲストに招いて、感想の意見交換とトークの会を実施した。ノンフィクションではないが、実情をしっかりと調査した上で作られている作品性、イギリスの社会保障制度の硬直性や社会的弱者を救うべくはずのセフティーネットの機能不全を物語にのせて伝えている作品のテーマについて、ケン・ローチ監督のその他作品との本作の相違点、比較など多角的な話題で、鑑賞体験をより深いものにするためのトークイベントとなった。

活動の成果・効果

上映前に、A5サイズのメモ用紙を渡し、上映後すぐに感想、質問を書いてもらった。続くトーク会では、ゲストの湯山氏にご意見や感想、質問への回答を答えてもらう形で進行させた。単に一人で観るだけで終わるのとは違い、より深いレベルでの理解や同じ作品を観ても、人によってとらえ方、感じ方は違うのだという、多様性も参加者の方々に実感してもらえる機会となった。また今回の機会がなければ、観なかった分野の映画と出会えたという声をいただいた。このような出会いを提供できたことも有益であった。



単に映画を観て終わらせず、プラスαの経験を通じて、より深い理解や気づき、学びの機会の提供を試みてきた。新庄村編では意見交換とトークだけでなく、日南町での食事会や野外の星空鑑賞会などの方法の有効性も確認できた。

今後の課題と問題点

開催時期と間隔については、課題が残った。2016年の第1回目は、7月から10月にかけて、月一回の開催ペースでおこなったが、やや間隔が開き過ぎて、間延びした感があったため、2度目の今回は、短期集中型での開催を試みた。2週間の土日を中心に祝日も絡めた開催とした。8月10日（木）～20日（日）の間でおこなった。

お盆の時期のため「内容的には行きたいが、都合がつかず行けない」という方が続出し集客に苦戦した。お盆時期の開催は、町村エリアでは厳しいと判断した。

またもう一つの狙いとして、帰省で戻って来ている出身者にも来てもらいたいためであったが、開催情報がなかなか届かない、届いても直前になり、他の予定が既に組まれていて参加できないという結果が多かった。

短期集中ではサポートスタッフの人数確保の面でも前年より苦労した。

- 代表者：田中正之 ●所在地：岡山市中区清水
- E-MAIL：itano@silver.ocn.ne.jp
- URL：https://www.facebook.com/inochitokurashi/
- 設立年：2016年 ●メンバー数：9名